



2026年6月15日

各位

会社名 株式会社 久世
代表者 代表取締役社長 久世 真也
(スタンダード市場 コード番号 2708)
問合せ先 取締役 井出 譲二
電話 03-3987-0018

中期経営計画第2フェーズ策定のお知らせ

当社は、2035年3月期の創業100周年を見据えて、中期経営計画第2フェーズ（2027年3月期～2029年3月期）を策定いたしましたので、その概要を下記の通りお知らせします。

記

1. 計画期間

2027年3月期～2029年3月期

2. 目標数値（2029年3月期）

連結売上高 840億円、連結 EBITDA 34億円

※投資後の利益水準を見るため「EBITDA = 営業利益 + 減価償却費」として計算しております。

※新リース会計基準適用前の数値です。

3. 重点取組項目

【成長戦略】

- ① 関東集中
- ② 3つの市場開拓 + EC/海外 ※3つの市場 = フードサービス、観光レジャー、中食惣菜
- ③ プラスオン戦略によるフルライン化の推進

【変革推進】

- ① オペレーションの変革
- ② DX から AX への転換
- ③ 次世代人材と女性活躍支援

【基盤強化】

- ① 物流の環境整備と機能強化
- ② 人材のエンゲージメント向上
- ③ 持続可能なシステムの構築

【リスクマネジメント】

- ① BCP の体制確立
- ② コンプライアンスの強化
- ③ 食品衛生とサービスの品質管理の強化

【グループシナジー】

- ① 顧客接点の共有化
- ② 連携した市場開拓
- ③ サポート機能の共有化

【サステナビリティ】

- ① 環境への貢献
- ② 社会への貢献
- ③ ガバナンスの強化

詳細は添付資料をご参照ください。

以上

食からはじめる、いい未来。



株式会社 久世

2035年へのロードマップ
BEYOND 100

(現在～2035年3月期) One Hundred

中期経営計画 第2フェーズ

(2027年3月期～2029年3月期)

目次

1. グループ経営理念
2. 当社グループの役割と機能
3. 2050年の長期ビジョン
4. 2035年のありたい姿
5. 中期経営計画第1フェーズ 主要施策の総括
6. 2035年へのロードマップ「BEYOND 100」
7. 中期経営計画第2フェーズ 環境認識と重点取組項目

2035年へ向けた「BEYOND 100」と中期経営計画第2フェーズ

グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ BEYOND 100

2034年4月/創業100周年の先へ

中期経営計画
第1フェーズ

●
現在地

中期経営計画
第2フェーズ

第3フェーズ

第4フェーズ

2026/3

2029/3

2032/3

2035/3

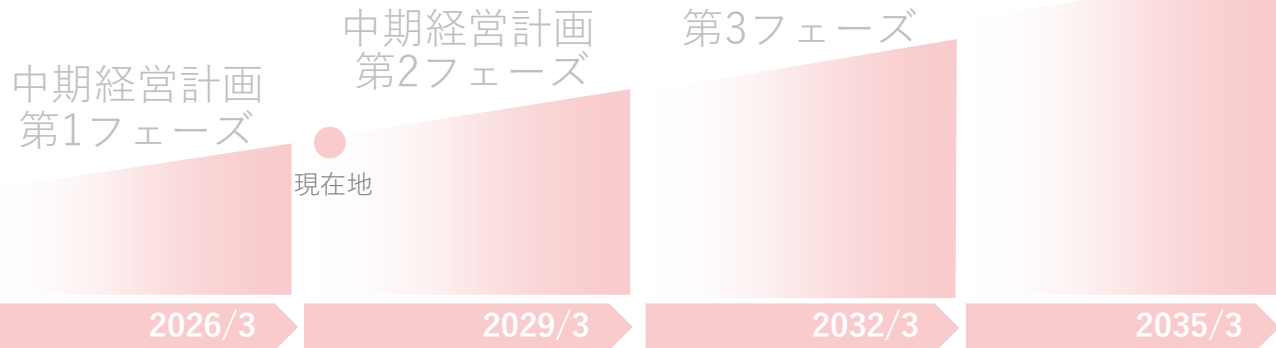
グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ **BEYOND 100**

2034年4月/創業100周年の先へ



グループ経営理念

ミッション 食の力で、想いを**つなぐ**。

ビジョン 食を通じて 人と人がつながり 心満たされる世界。

バリュー 頼れる食のパートナーとして、3つの価値を提供します。

Entertainment 予想を超える楽しさを、提案します。

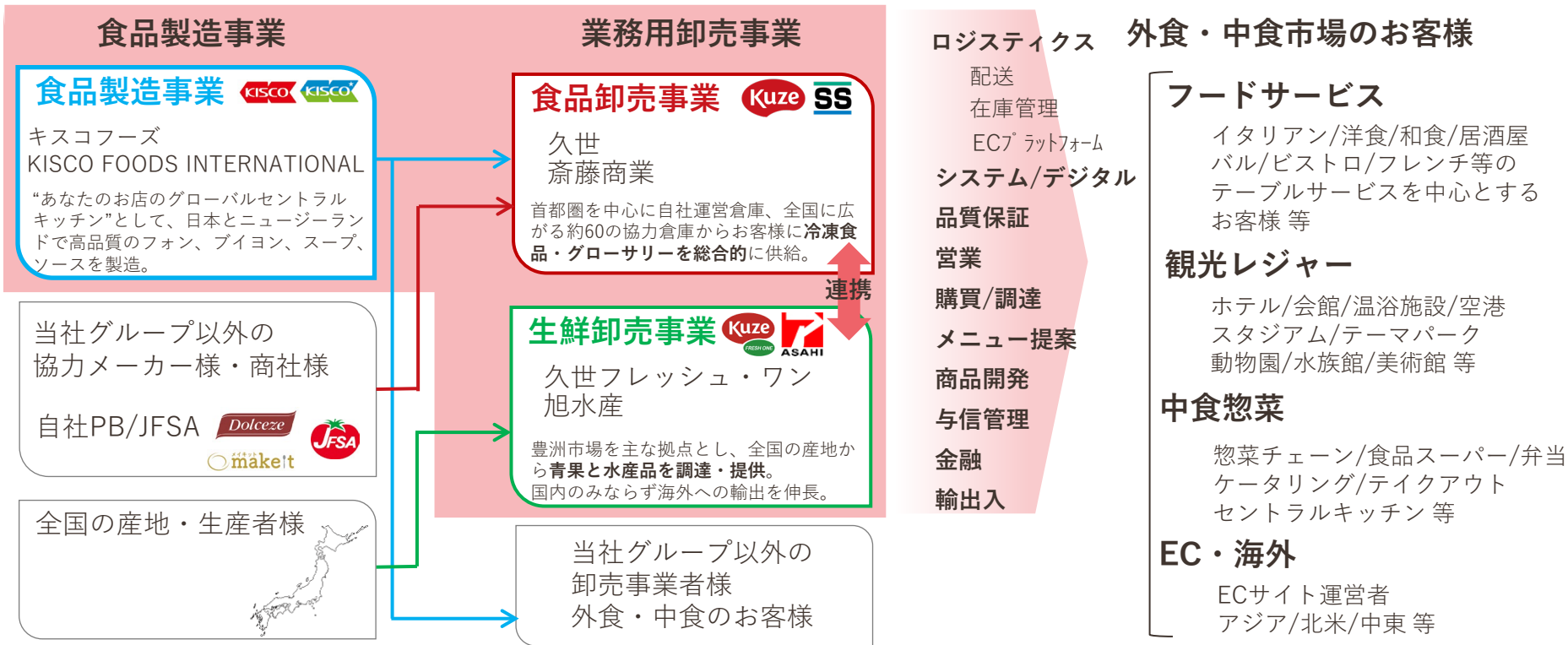
Creativity 時代を先取り、価値を創造します。

Logistics 正確で効率的に、届けます。

食には空腹を満たし、命を維持するだけではない大きな役割があります。食は人と人をつなぎ、コミュニケーションを通じ社会の活力をつくります。私たちは“**つなぐ**”をミッションに、ビジョンの実現と、バリューの提供にワンチームで挑戦します。

当社グループの役割と機能

日本の外食・中食産業は、世界でも類を見ないほど多彩で、豊かな食文化を形成しています。
この豊かな食文化を支えるには、生産者・食品メーカー・卸・商社が連携し、食の流通全体を動かすことが不可欠です。
久世グループは、業務用食品（B to B）に特化した「**食品卸売**」「**生鮮卸売**」「**食品製造**」の3つの事業を通じて、
外食・中食のお客様の課題解決と価値向上に取り組んでいます。



グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

人のつながりが
より大切な社会に

2035年へのロードマップ **BEYOND 100**

2034年4月/創業100周年の先へ

中期経営計画
第1フェーズ

現在地

中期経営計画
第2フェーズ

第3フェーズ

第4フェーズ

2026/3

2029/3

2032/3

2035/3

2050年の長期ビジョン

持続可能で質的な成長を通じ、

食に関わるすべての人のウェルビーイングを実現する

作る人、届ける人、食べる人。

豊かな食は、人と人をつなぎ、社会に活力を与えます。

私たちは食のつながりを広げることで、

食に関わるすべての人のウェルビーイングの実現をめざします。

2035年のありたい姿

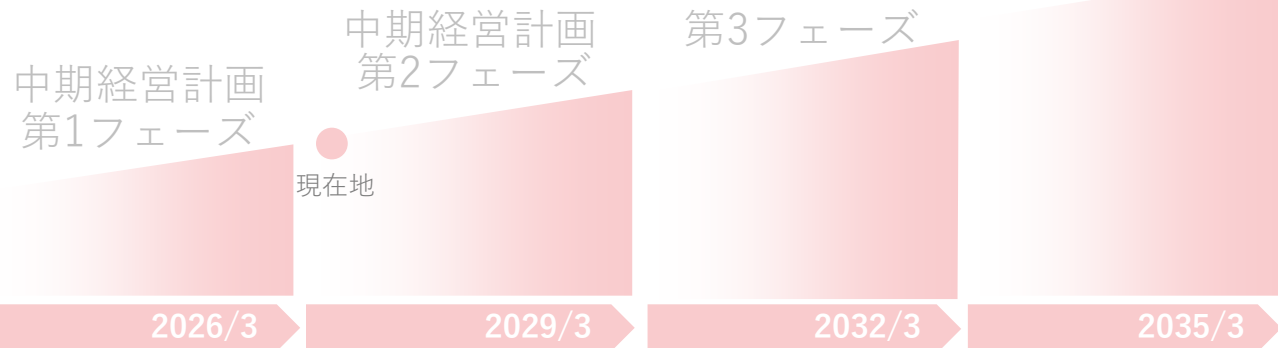
グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ **BEYOND 100**

2034年4月/創業100周年の先へ



2035年3月期（創業100周年）のありたい姿

ヒト・デジタル・ロジスティクスの3つの力で、
お客様と共に、食をもっと身近なエンターテイメントに

お客様の課題解決と価値向上を提案・提供し続けられる企業へ

食べることは、身近な楽しみでもあります。

例えば、親しい友人や家族と食事をする。食べ歩きの写真をSNSでシェアすること。
食は、人と人の結びつきを強める「エンターテイメント」であると私たちは信じています。
私たちは、ヒトの力・デジタルの力・ロジスティクスの力の3つの力で、
外食・中食のお客様と共に、食をもっと身近なエンターテイメントに変えていきます。

グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ BEYOND 100

2034年4月/創業100周年の先へ

第4フェーズ

第3フェーズ

中期経営計画
第2フェーズ

中期経営計画
第1フェーズ

●
現在地

2026/3

2029/3

2032/3

2035/3

数値目標（連結）

2026年3月期に売上高735億円、営業利益21億円、営業利益率3.0%を達成
(2023年5月発表当初計画 売上高660億円、営業利益13億円、営業利益率2.0%以上)

3つの基本施策

関東の売上比率向上、PB（自社ブランド）の売上比率向上
千葉県の新斎藤商業をグループ化 ほか

強化する市場

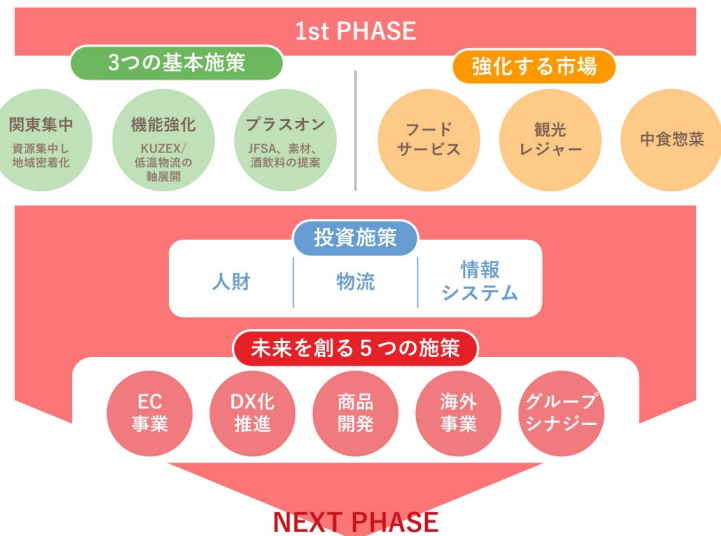
フードサービスの売上を拡大しつつ、
観光レジャーと中食惣菜の売上比率を向上

投資施策

新物流センターを開設するなど物流拠点再整備を実施
継続的に待遇改善や環境改善を実施 ほか

未来を創る5つの施策

自社ECサイト「プロデポ」の稼働開始、海外輸出増加
フードサービスのお客様との相互コミュニケーションの
プラットフォーム“KUZEX”推進 ほか



2035年へのロードマップ「BEYOND 100」

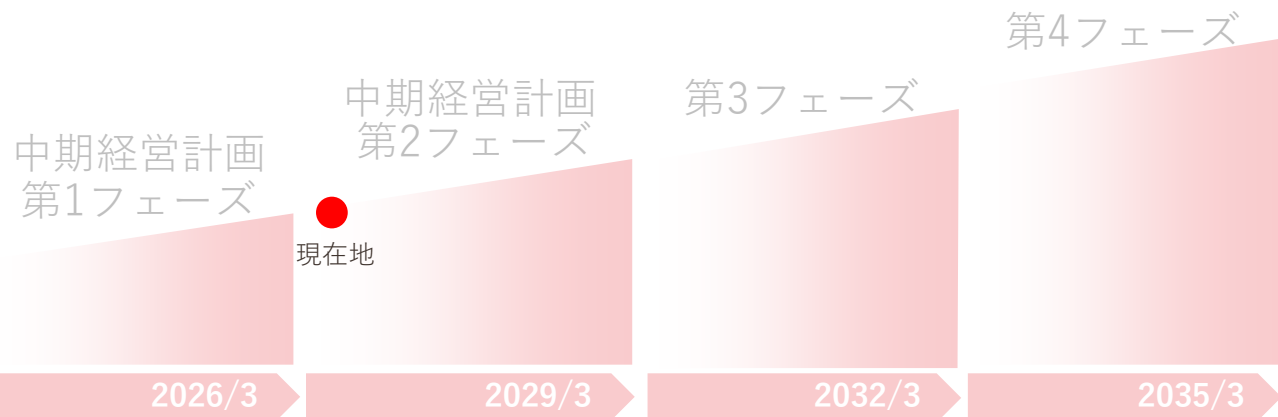
グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ BEYOND 100

2034年4月/創業100周年の先へ



2035年へのロードマップ「BEYOND 100」

2035年へのロードマップ：BEYOND 100

2035年のありたい姿

ヒト・デジタル・ロジスティクスの3つの力で、お客様と共に、食をもっと身近なエンターテイメントに

第1フェーズ

2026/3

事業基盤の再構築



コロナ禍からの市場回復に対応し物流再編を進め、キャパシティ確保、及び収益改善と財務強化を図る。

実績

2026年3月期

連結売上高735億円
連結EBITDA 25億円

第2フェーズ

2027/3~2029/3

事業モデルの変革

- ✓ オペレーションの変革
- ✓ DXからAXへの転換
- ✓ 次世代人財と女性活躍支援

人財育成を推進すると共に、オペレーション変革とDXからAXへの転換を図る。顧客サービスと生産性を向上させる。

●
現在地

目標

2029年3月期

連結売上高840億円
連結EBITDA 34億円

第3フェーズ

2032/3

インフラ基盤の整備

- ✓ インフラの整備
- ✓ AXの完成と稼働
- ✓ 次世代人財の登用

グループ内の次世代システム、物流センターや工場等のインフラを整備する。更なる持続的成長の基盤を整備する。

第4フェーズ

2035/3

3つの力の連動開始

- ✓ ヒト・デジタル・ロジスティクスの3つの力が連動開始

オペレーションとインフラを連動させ、外食・中食のお客様と共に新たなサービスの創造を図り、100周年の先へ“新しい価値の創造”を行う。

※投資後の利益水準を見るため「EBITDA = 営業利益 + 減価償却費」として計算。新リース会計基準適用前の数値。

グループ経営理念

2050年
長期ビジョン

2035年
ありたい姿

2035年へのロードマップ BEYOND 100

2034年4月/創業100周年の先へ

中期経営計画
第1フェーズ

2026/3

中期経営計画
第2フェーズ

●
現在地

2029/3

第3フェーズ

2032/3

第4フェーズ

2035/3

環境認識

強み

店舗展開の支援機能と体制
品揃えと提案力/商品開発力
関東の事業基盤

課題

あらゆるコストの増加
労働集約型事業モデル
インフラ投資の必要性

機会

食の外部化の進展
“身近な贅沢”市場の活性化
関東への経済集中

環境変化

人口減少・市場縮小
経済・気候・食糧需給の変化
テクノロジーの進化

2035年へのロードマップ：BEYOND 100

テーマ：事業モデルの変革

第1フェーズ 2026/3	第2フェーズ 2029/3	第3フェーズ 2032/3	第4フェーズ 2035/3
事業基盤の再構築 コロナ禍からの市場環境に対応し物流再編を進め、ネットシティ確保、及び収益改善と財務強化を図る。	事業モデルの変革 ✓ オペレーションの変革 ✓ DXからAXへの転換 ✓ 次世代人材と女性活躍支援 人材育成を推進すると共に、オペレーション変革・DXからAXへの転換を図る。顧客サービスと生産性を向上させる。	インフラ基盤の整備 ✓ インフラの整備 ✓ AXの完成と稼働 ✓ 次世代人材の登用 グループ内の次世代システム、物流センターや工場等のインフラを整備する。更なる持続的成長の基盤を整備する。	3つの力の運動開始 ✓ ヒト・デジタル・ロジスティクス3つの力が運動開始 オペレーションとインフラを運転させ、外貨・中央の目標と共に新たなサービスの創造を図り、100周年の先へ「新しい価値の創造」を行う。
実績 2026年3月期 連結売上高735億円 連結EBITDA 25億円	目標 2029年3月期 連結売上高840億円 連結EBITDA 31億円		

成長戦略

- ・ 関東集中
- ・ 3つの市場開拓 + EC/海外
(フードサービス/観光レジャー/中食惣菜)
- ・ プラスオン戦略によるフルライン化の推進

変革推進

- ・ オペレーションの変革
- ・ DXからAXへの転換
- ・ 次世代人材と女性活躍支援

基盤強化

- ・ 物流の環境整備と機能強化
- ・ 人材のエンゲージメント向上
- ・ 持続可能なシステムの構築

リスクマネジメント

- ・ BCPの体制確立
- ・ コンプライアンスの強化
- ・ 食品衛生とサービスの品質管理の強化

グループシナジー

- ・ 顧客接点の共有化
- ・ 連携した市場開拓
- ・ サポート機能の共有化

サステナビリティ

- ・ 環境への貢献
- ・ 社会への貢献
- ・ ガバナンスの強化

食からはじめる、いい未来。



株式会社 久世